

半導体漫遊記

湯之上隆

95

人生の半分以上をテ
クノロジーに關わって
生きてきたが、「テク
ノロジーとは何か？」
と問われると、返答に
窮してしまふ。ウィキ
ペディアには、「科学
的知識を個別領域にお
ける實際的目的のため
に工学的に応用する方
法論」などと書いてあ
るが、およそ明快な回
答とは言い難い。

企業に自己資金を投資
する、いわゆるエンジ
エル投資家として名高
い。
ティールによれば、
未来の進歩の形は二つ
ある(図1)。

日本のエレクトロニクス産業

注目すべき「0 to 1」

「1」なきグローバル
つまりゼロから1を生
み出すことであり、こ
れを一言で表すと「テ
クノロジー」になる
と、ティールは言う。
「1 to n」がグ
ローバリゼーション
で、「0 to 1」が
テクノロジー、何と分
かりやすい表現だろ
う。私は大いにふに落
ちた。

行っていると思われる
からだ。
例えは、かつてトラ
ンジスタラジオやウォ
ークマンを作り出した
「0 to 1」的企業
が次から次へと誕生し
ている。PCのオペレ
ティングシステム
は典型的な「1 to
n」企業になって
しまったように思う。
「0 to 1」を行
うことができる。

「0 to 1」は、成功例をコ
ピーする水平的進歩ま
たは拡張的進歩であ
り、1をnにすることに
界の未来を左右すると
思っているけれど、実
はテクノロジーの方が
遥かに重要だ」と警告
する。なぜなら、「資
源の限られたこの世界
で、新たなテクノロジ
ー(つまり「0 to 1」
を行って)を支配した
グループは、新しい何
かを行う垂直的進歩
を一言で表すと「グロ
ーバリゼーション」に
なるという。

また集中的進歩で、
つまりゼロから1を生
み出すことであり、こ
れを一言で表すと「テ
クノロジー」になる
と、ティールは言う。
「1 to n」がグ
ローバリゼーション
で、「0 to 1」が
テクノロジー、何と分
かりやすい表現だろ
う。私は大いにふに落
ちた。

「1 to n」は、多く
の企業が参入する。す
なわち、競争が激し
く、利益を上げにく
い。ソニーをはじめと
する日本エレクトロニ
クス企業の不調は、こ
れが原因だ。その物差
なりそうだ。その物差
しから言えば、日本の
エレクトロニクス産業
が注力すべきなのは、
「0 to 1」のおよ
び「1 to n」である。
(微細加工研究所・所
長)

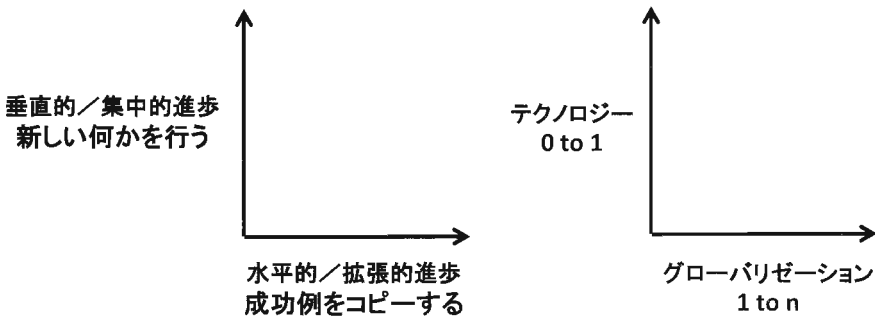


図1 未来の進歩の二つの形

出所:ピーター・ティール著『ZERO to ONE』(NHK出版)、25ページの図